

平成21年9月期 第2四半期決算短信(非連結)

平成21年5月14日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社まんだらけ
 コード番号 2652 URL <http://www.mandarake.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長
 四半期報告書提出予定日 平成21年5月15日
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 古川 益蔵
 (氏名) 川代 浩志

TEL 03-3228-0007

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年9月期第2四半期の業績(平成20年10月1日～平成21年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年9月期第2四半期	3,759	—	148	—	77	—	41	—
20年9月期第2四半期	3,312	6.7	155	△21.8	74	△45.1	117	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年9月期第2四半期	11,212.58	—
20年9月期第2四半期	29,558.81	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
21年9月期第2四半期	8,442	—	2,684	—	31.8	—	729,416.00	—
20年9月期	8,575	—	2,651	—	30.9	—	720,213.58	—

(参考) 自己資本 21年9月期第2四半期 2,684百万円 20年9月期 2,650百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年9月期	—	—	—	2,000.00	2,000.00
21年9月期	—	—	—	—	—
21年9月期 (予想)	—	—	—	2,000.00	2,000.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年9月期の業績予想(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
通期	7,225	2.0	374	△10.4	218	6.7	120	△33.7	30,033.02	—

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

〔(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。〕

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

〔(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。〕

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年9月期第2四半期 4,020株 20年9月期 4,020株

② 期末自己株式数 21年9月期第2四半期 339株 20年9月期 339株

③ 期中平均株式数(四半期累計期間) 21年9月期第2四半期 3,681株 20年9月期第2四半期 3,972株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

・定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期会計期間におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題を発端とした国際金融危機の深刻化、米国企業の大型破たん、株式市場における株価の下落や為替の急激な変動等の影響を受けて景気は急激に悪化し、個人消費におきましても消費意欲は大幅に冷え込むなど、企業を取り巻く環境は非常に厳しい状況で推移いたしました。

当社が関わるまんが、アニメ関連業界及び古本業界におきましては、景気悪化の影響による生活防衛意識が追い風となって市場規模は拡大基調にあり、依然として企業の新規参入意欲は持続され、企業間の競争は国内外を問わず激化しております。

このような経済環境におきまして、当社はこれまでの方針を継続し、全事業にわたり積極的な営業活動を展開するとともに、経営の効率化と経営基盤の強化安定に努めてまいりました。

その結果当第2四半期会計期間の売上高は、平成20年中において移転のうね大型化したしました名古屋店、グランドカオス、コンプレックスの通期売上高の貢献も加え1,940百万円(前年同期比13.5%増)となりました。利益面では大型新店舗での人員増をはじめとした経費の増加によって営業利益で59百万円(前年同期比19.5%減)となりました。営業利益の減少に対して、借入金の返済進捗による支払利息等の減少はありましたが補うには至らず経常利益は21百万円(前年同期比8.9%減)となり、なお四期純利益では11百万円(前年同期比8.2%増)となりました。

品目別では、世界に市場の拡大を続ける「同人誌」は524百万円(対前年同期比5.2%増)となりました。また、一層の商品多様性を広げ、大人から子どもまで年齢、性別にとらわれない幅広いニーズを獲得する「TOYS」の売上高は441百万円(対前年同期比34.4%増)となりました。さらに、旧作の復刻や、これまで未収録であった作品の刊行など、新作と併せて話題が相次ぐ日本のまんがに関連した商品が、好調に推移し「本」の売上高は428百万円(対前年同期比6.2%増)となりました。加えて、海外での映画賞を獲得するなど、一層の評価向上が著しい日本のアニメーションに関するセル画、CD、DVD等を含む「その他」品目の売上高は537百万円(対前年同期比13.9%増)となりました。

なお、平成21年9月期第1四半期会計期間に係る経営成績に関する定性的情報については、平成21年9月期第1四半期決算短信(平成21年2月12日開示)をご参照ください。

※当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」を適用しておりますので、上記記載の前年同期比は参考情報として記載しております。

2. 財政状態に関する定性的情報

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前会計期間末に比べ47百万円減少し、当第2四半期末には164百万円となりました。

当第2四半期における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は、146百万円となりました。これは主に税引前当期純利益で77百万円、減価償却費93百万円、その他の流動資産の減少208百万円が、支出におけるたな卸資産の増加145百万円を上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、33百万円となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出が45百万円あったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、160百万円となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出423百万円及び短期借入金の返済による支出1,010百万円が、短期借入による収入1,330百万円を上回ることによるものであります。

3. 業績予想に関する定性的情報

当期も、日本の誇る文化としてのまんが、アニメーションを世界に向けて発信すべく、営業活動を進めてまいります。さらにまんが、アニメーション関連に限らず、あらゆる中古品に対し、その商品価値を追求し新たな市場を開拓してまいります。

当社は、引き続き既存店舗での営業強化を図り、また今後も大都市圏を中心に店舗網の拡充を積極的に推進してまいります。

ホームページにおきましては、国内、国外を問わず様々な情報をもとにWeb上販売活動を積極的に推進し、Web通販と通年で毎日開催するオークション販売、さらに当社が選りすぐった商品を集めました大オークション大会を年間4回開催することにより、売上高と利益双方の拡大を目指してまいります。これらのWeb上における情報の発信及び収集によって、全世界のマニアのお客様の満足度を高め、同時に新たなマニア層を拡充いたしてまいります。

このような販路拡大の継続、拡大とともに、まんだらけの最大の特徴である商品の買い取りのノウハウも、さらに幅広く多方面に目を向けることによって、あらゆるサブカルチャーのメインカルチャー化を図り、未だ価値の見出されていない商品を当社が取り扱うことで、社会的なステイタスを創造すべく努めてまいります。

当社は今後もまんが、アニメーションに関連する商品を中心に、新たな商品の取り扱いも積極的に推進し、企業利益の増大を図っていく方針であります。

なお、業績予想につきましては、店舗移転から1周年を経過した心斎橋「グランドカオス」及び秋葉原「コンプレックス」等における好調な売上高と利益の伸びに加えて、既存各店の順調な営業活動の展開あることから、第3四半期以降、年間を通じて当社が最も利益を伸ばす最終四半期にかけまして全店の業績向上に期待できる現状によって、平成20年11月14日に発表いたしました「平成20年9月期決算短信(非連結)」に記載のとおり、売上高7,225百万円、営業利益374百万円、経常利益218百万円、当期純利益120百万円と変更ありません。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①簡便な会計処理

該当事項はありません。

②四半期財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 四半期財務諸表に関する会計基準

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

② 棚卸資産の評価に関する会計基準

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、売価還元法による低価法によっておりましたが、当第1四半期会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、売価還元法による低価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。

なお、これにより営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

1 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成21年3月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	164,340	224,501
受取手形及び売掛金	122,730	103,312
商品及び製品	3,556,668	3,408,372
仕掛品	361	616
原材料及び貯蔵品	25,796	28,354
繰延税金資産	180,206	170,221
その他	77,333	283,271
貸倒引当金	△1,072	△1,072
流動資産合計	4,126,364	4,217,578
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,480,773	2,479,478
減価償却累計額	△949,077	△879,763
建物及び構築物(純額)	1,531,695	1,599,714
土地	2,175,269	2,175,269
その他	554,455	559,452
減価償却累計額	△469,576	△460,014
その他(純額)	84,878	99,438
有形固定資産合計	3,791,844	3,874,422
無形固定資産	54,456	14,197
投資その他の資産		
投資有価証券	42,034	42,019
差入保証金	319,147	323,647
繰延税金資産	73,123	65,564
その他	63,698	65,533
貸倒引当金	△27,839	△28,014
投資その他の資産合計	470,165	468,751
固定資産合計	4,316,466	4,357,371
資産合計	8,442,831	8,574,950

(株)まんだらけ(2652) 平成21年9月期第2四半期決算短信(非連結)

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成21年3月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	35,031	31,837
短期借入金	2,720,000	2,400,000
1年内返済予定の長期借入金	686,600	829,345
1年内償還予定の社債	98,500	98,500
未払法人税等	61,253	114,695
賞与引当金	45,063	40,069
その他	177,129	161,543
流動負債合計	3,823,578	3,675,991
固定負債		
社債	1,181,250	1,230,500
長期借入金	611,600	892,700
退職給付引当金	141,422	124,652
固定負債合計	1,934,272	2,247,852
負債合計	5,757,850	5,923,844
純資産の部		
株主資本		
資本金	837,440	837,440
資本剰余金	1,117,380	1,117,380
利益剰余金	862,513	828,601
自己株式	△132,712	△132,712
株主資本合計	2,684,621	2,650,709
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	358	396
評価・換算差額等合計	358	396
純資産合計	2,684,980	2,651,106
負債純資産合計	8,442,831	8,574,950

(2) 【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自平成20年10月1日 至平成21年3月31日)
売上高	3,759,458
売上原価	1,974,644
売上総利益	1,784,813
販売費及び一般管理費	1,636,480
営業利益	148,332
営業外収益	
受取利息	335
その他	13,875
営業外収益合計	14,210
営業外費用	
支払利息	51,201
社債利息	12,037
その他	21,463
営業外費用合計	84,702
経常利益	77,840
特別利益	
貸倒引当金戻入額	175
特別利益合計	175
特別損失	
有形固定資産除却損	683
特別損失合計	683
税引前四半期純利益	77,332
法人税、住民税及び事業税	53,577
法人税等調整額	△17,518
法人税等合計	36,058
四半期純利益	41,273

【第2四半期会計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)
売上高	1,940,647
売上原価	1,065,546
売上総利益	875,101
販売費及び一般管理費	815,475
営業利益	59,626
営業外収益	
受取利息	246
その他	7,814
営業外収益合計	8,060
営業外費用	
支払利息	24,841
社債利息	5,952
その他	15,440
営業外費用合計	46,234
経常利益	21,452
特別利益	
貸倒引当金戻入額	75
特別利益合計	75
特別損失	
有形固定資産除却損	683
特別損失合計	683
税引前四半期純利益	20,843
法人税、住民税及び事業税	30,499
法人税等調整額	△20,905
法人税等合計	9,593
四半期純利益	11,250

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自平成20年10月1日 至平成21年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	77,332
減価償却費	93,534
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△175
賞与引当金の増減額(△は減少)	4,993
退職給付引当金の増減額(△は減少)	16,769
受取利息及び受取配当金	△413
支払利息	63,239
為替差損益(△は益)	308
有形固定資産除却損	683
売上債権の増減額(△は増加)	△19,418
たな卸資産の増減額(△は増加)	△145,482
仕入債務の増減額(△は減少)	3,194
その他	216,304
小計	310,870
利息及び配当金の受取額	335
利息の支払額	△65,833
法人税等の支払額	△98,712
営業活動によるキャッシュ・フロー	146,660
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の払戻による収入	12,500
有形固定資産の取得による支出	△5,556
無形固定資産の取得による支出	△45,000
その他	4,500
投資活動によるキャッシュ・フロー	△33,556
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	1,330,000
短期借入金の返済による支出	△1,010,000
長期借入金の返済による支出	△423,845
社債の償還による支出	△49,250
配当金の支払額	△7,362
財務活動によるキャッシュ・フロー	△160,457
現金及び現金同等物に係る換算差額	△308
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△47,661
現金及び現金同等物の期首残高	212,001
現金及び現金同等物の四半期末残高	164,340

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項なし

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項なし

「参考」

前年同四半期に係る財務諸表等

(1) 四半期損益計算書

科 目	前第2四半期会計期間 (自 平成19年10月1日 至 平成20年3月31日)
	金額(千円)
I 売上高	3,312,097
II 売上原価	1,646,348
売上総利益	1,665,748
返品調整引当金戻入額	264
差引売上総利益	1,666,013
III 販売費及び一般管理費	1,510,312
営業利益	155,700
IV 営業外収益	11,325
V 営業外費用	92,980
経常利益	74,045
VI 特別利益	140,674
VII 特別損失	5,584
税引前第2四半期(当期)純利益	209,135
法人税、住民税及び事業税	109,759
法人税等調整額	△18,031
第2四半期純利益	117,407

(2) 四半期キャッシュ・フロー計算書

科 目	前第2四半期会計期間 (自 平成19年10月1日 至 平成20年3月31日)
	金額(千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前第2四半期純利益	209,135
減価償却費	73,274
退職給付引当金の増加額	13,300
賞与引当金の増加額	1,866
返品調整引当金の減少額	△264
貸倒引当金の減少額	△150
受取利息及び受取配当金	△2,205
支払利息	68,398
為替差損	533
有形固定資産売却益	△140,524
有形固定資産除却損	5,584
売上債権の減少額	5,547
たな卸資産の増加額	△256,210
仕入債務の増加額	810
その他の流動資産増加額	△12,231
その他の固定資産減少額	1,784
その他の流動負債減少額	△4,171
その他の固定負債減少額	△5,407
未払消費税等の増加額	27,185
未収消費税等の減少額	15,701
小計	1,958
利息及び配当金の受取額	2,117
利息の支払額	△69,769
法人税等の支払額	△80,831
営業活動によるキャッシュ・フロー	△146,525
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の払戻による収入	100,000
有形固定資産の取得による支出	△598,777
無形固定資産の取得による支出	△3,900
有形固定資産の売却による収入	432,074
その他の投資の取得による支出	△36,110
その他の収入	91
投資活動によるキャッシュ・フロー	△106,621
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	1,450,000
短期借入金の返済による支出	△1,000,000
長期借入金の返済による支出	△452,998
社債の償還による支出	△49,250
配当金の支払額	△9,952
自己株式の取得	△65,370
財務活動によるキャッシュ・フロー	△127,570
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△533
V 現金及び現金同等物の増加額	△381,251
VI 現金及び現金同等物の期首残高	1,078,376
VII 現金及び現金同等物の期末残高	697,125